

公益社団法人長野県介護福祉士会平成 29 年度事業報告

公益社団法人長野県介護福祉士会

会長 柳澤 玉枝

世界各国で異常高温や地震など自然災害で甚大な被害が発生し、日本においても九州北部や秋田県などで台風や活発な梅雨前線の活動で大雨をもたらしました。また、東日本大震災から7年、熊本地震から2年経過しましたが、今なお多くの住民が避難生活を余儀なくされています。一日でも早く復旧・復興できることを願っています。

長野県介護福祉士会では、自然災害時にその専門性を活かした支援活動を迅速に行うことを目的に、平成 28 年度に「災害救援活動マニュアル」を作成しています。今年度からは、「災害ボランティア基礎研修」に取り組み災害救援ボランティアの育成を進めています。現在 20 名の会員の皆さんに登録していただいています。いつ自分の身に降りかかるかわからない災害に我がこととして捉え協力して行きましょう。

平成 29 年度の事業運営においては、「変革に対応できるパワーの醸成を目指して」を、目標に一年間事業展開して参りました。キャリアパス対応研修として「認定介護福祉士養成研修」「介護福祉士基本研修」「ファーストステップ研修 16 日間」「実習指導者研修」「サービス提供責任者研修」「認知症スキルアップ研修」「リスクマネジメント研修」「ICF に基づいた生活支援技術講習会」、現任研修として、多職種連携を含めた「介護と薬」「口腔ケア」「看取り」、そして、国家資格取得の社会的支援として「実務者研修教員養成講習会」、29 年 11 月から技能実習制度に介護職種が追加され、厚生労働省から日介が受託した介護職種の「技能実習指導員講習会」を実施いたしました。

30 年 4 月には、超高齢化社会に向け主に制度の持続可能を高めることを目的として、医療介護保険の同時改正が行われました。そして地域包括ケアシステムの構築は、その強化と実現が急がれています。自立支援、重度化防止、医療介護の連携、共生社会の実現に向けた取り組みなど、これらの示された施策を実施していくうえでは、それぞれの専門性を担保しどのように行っていくのが問われることとなります。

介護人材の量、質の確保が課題となっている今日、介護福祉士の役割の明確化や養成課程の教育内容の見直しがされ、今後求められる介護福祉士像に即した介護福祉士を養成して行くことが示されています。介護人材の構造転換の中で、質の高い介護サービスを提供していくためには、介護現場における中核的な存在である介護福祉士の役割は益々重要となっています。これからも介護福祉士会が行ってきた「資質向上と質の担保」を職能団体の責務として積極的に取り組んで参ります。

本年度は、役員改選により新三役でのスタートでした。年々組織率が低下していく中、原点回帰として「会と会員がつながっているか」「支部、ブロックの役員の使命」等の検証を行いました。また、会員入会促進キャンペーンや会員向けのワークショップを行い介護福祉士会に入会している意義や役割、自分の介護観の振り返り等を行い組織強化に努めて参りました。

介護人材の不足や世代交代などさまざまな環境の変化がありますが、研修を基本に「大変な時だからこそ励まし合える」「情報交換してお互いに学び合える」そんな仲間作りをして、つながりあえる介護福祉士会にしていきたいと思えます。

会は皆さんひとり一人のためにあり、皆の力で共に作り上げて行くものだと思います。

長野県介護福祉士会が魅力ある組織となるよう、一步一步前に進んで行きたいと思えますので、皆様のお力添えを宜しくお願い致します。